

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自治会に入っており、地区の催し物・お知らせは回覧板で知らされる。敬老会・花火大会・廃品回収・ゴミ収集後の掃除当番となった時は、入居者の方と一緒に参加している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、理念を共有する為意識づけていくように唱和し、サービスの場面(言葉かけ・態度・記録等)の中で、利用者のニーズを尊重し安心して生活が送れる様、日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所を訪問された方が視野に入る様に、玄関・リビング・事務所に掲示しており、毎月発行の通信にも理念を書き入れて、ご家族にも事業所の考え方をお伝えしている。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方とは日頃より気軽に挨拶を交わしており、家になった果物を持ってきていただいたり、洗濯物を干していると雨が降っているのを知らせていただいたり又、駐車場を貸し借りしたりお互い助け合いながら日常のお付き合いをさせていただいている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入った事により、回覧板も回して頂き、事業所主催の敬老会にも来て頂き、地域の行事にも参加したりしている。その時、グループホームに対する理解や協力を得られるよう交流を務めている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所が積み上げてきた認知ケアと時間が許せば、高齢者に何か役立つことがないかを話し合っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義を職員に説明し、前回の評価を話し、改善できる事は直ぐ実行に移し具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の取り組み・状況を報告し、率直な意見を出して頂く様伝え、そこでの意見をサービス向上に繋がっていくよう取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行事の時等に、担当者の方にも参加して頂くよう声かけしている。尚、開かれた事業所を目指すと共に、質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加し、パンフレット等をホームに備え、入居時や現在該当者はおられないが必要な方には説明出来る様準備している。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は、高齢者虐待防止について正しく認識しており、利用者に虐待が一切行われないう、職員間でもお互い見過ごされる事のない様注意を払っている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、契約書等を渡し、文書・口答で十分説明し、ご本人・ご家族の方に不安・疑問点を尋ねて頂き、納得していただくよう努力をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より何かあれば管理者や職員に話してもらおうよう伝えており又、運営推進会議に利用者を変て出席して頂き意見をもらっている。それを運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等はご家族が訪問された時、個々に合わせた報告をしている。又、定期的にお手紙でも報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、苦情相談窓口のポストもわかりやすい所に掲示している。入居者様やご家族におりにふれご意見相談などあれば、遠慮なく言って頂くよう伝えている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者は、理念を踏まえた上で、共通の価値観や方針を持つためにも、職員会議や内部研修を行い、互いの意見を尊重しサービスに反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況(外出時、利用者家族の状況の変化等)に応じ、適時に職員を配置している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの関係が継続出来るよう努め、変わる場合はダメージを最小限にする配慮を個別にしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたって、性別・年齢は制限していない。働く職員に能力を発揮出来るような係を担当してやり甲斐を持って活躍してもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権を尊重する為に、職員等に対して会議カンファレンス又、実践を通じて常日頃より話をしていき、啓発活動に取り組んでいる。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が管理者・主任に対し研修を行い、又外部研修の機会を確保したり、それを基に職員を段階に応じて内部研修や会議等を通じて伝達して、働きながらトレーニングをしながら取り組んでいっている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者・管理者は、職員が他事業所と交流出来る様見学したり、親睦会を開催したりしてサービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者等が、職員の抱えている悩みなどについて何か感じた時は折を見て話す機会を設け、軽減を図ると共に、職員のニーズに応えられるよう取り組んでいる。又、親睦会等の機会を作り気晴らしができるよう環境づくりをしている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者、管理者は、職員と共にチームワークをより充実させながら職員の努力や実績を認めやり甲斐のある職場を目指している。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居までの間、本人とも面談をし、場合によっては自宅や入院先に訪問し不安や要望を聞き少しでも不安を取り除いて入居につなげている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居までの間見学をして頂き、安全と安心と暖かみのある事業所であるということを感じて頂き、認識してもらう努力をしている。入居後の初期段階も家族と密に連絡を取り合っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた事柄について十分吟味し、本人と家族が現在必要としている支援を見極め、他のサービスが適切と感じたら他のサービスの利用も含め紹介もしている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来て頂き、行事や日常生活の写真を見せたり、又ゲームを共にしたりして現状の利用者との触れ合いの中で心を開き、納得した上での利用を工夫する。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場におかず、お互い支えあう関係をつくり、入居者間でも支えあう場面が見られ喜怒哀楽を共にしていると感じる。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に協力しながら、同等の立場で利用者を支えていく関係を築いている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の普段の生活ぶりを伝えることにより、家族の方が本人をより深く理解して頂くと共に、絆を強くしていくよう支援している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の御理解を得ながら、馴染みの方との接点(つながり)が途切れないよう支援に努めている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で、利用者同志の関係を把握し、トラブル事も多々あるが受容しながら双方の関係が悪化しない様職員同志も、チームワークを充実させながら支援に取り組んでいる。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、何ごとでも相談していただくよう伝えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活習慣を把握すると共に、何が充分か、何が不十分かを見極めながら利用者の意向に沿いながら、ニーズに対応するよう努めている。困難な場合は、充分判断しながら取り組んでいる。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を十分把握した上で、現在必要としているものは何かを見極める目を持つことが大切である事を認識しながら取り組んでいる。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	クライアントの生活習慣及び日常生活の中に入って、個々人をより深く知ると共に心身状態を把握し、ニーズに合った対応ができるよう取り組んでいる。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者との話し合いを月に2～3度のモニタリング、それぞれの主治医・かかりつけ医の助言を求め、一人ひとりのその時の状態に沿った具体的な介護計画を作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度以上は必ず計画的に検討会議を行っており、利用者の生活状況の変化を見逃さず、万一変化が生じた場合臨機応変に話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の目的を把握し、日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を個別に記録することにより、職員間で情報を共有しながら変化にすばやく対応でき、介護計画の見直しに生かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のその時のニーズに応じ、状況を把握して外泊や外出をされたり、また身内以外の馴染みの方が面会に来られ居室にての談笑やリビングにての体操などに参加していただく等の柔軟な支援をしている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の生活安定や拡充の為、民生委員や警察・消防等の働きかけ、又外食時等の予約の協力を得ながらの支援。行事の際には踊り・ハモニカ演奏の実施などのボランティアの協力も実施している。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族のニーズに応じた他のサービス機関への接遇を実施している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後、本人及び家族の意向や必要性に応じて民生委員等の協力を得ながら、権利擁護について連携を密にしていよう取り組んでいる。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にすると共に、現在月1度の往診をかかりつけ医にお願いしており、安心して適切な医療が受けられるよう体制を築いている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知専門医療のものわすれ外来を受診しており電話で相談も出来、主治医より家族や職員にも指示・助言をいただいている。緊急時は土・日・夜間も対応していただいている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	専門医・かかりつけ医の看護師に利用者の日常の健康管理など相談しながら、よりよき支援等への助言をいただきながら取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族・専門医や医療機関の地域連携室と情報交換を密にして、出来るだけ早期退院できるように又、受入れ体制についても十分な連携を準備している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方について、段階的に家族との連絡を密にしながらかかりつけ医との連携を図り、全員で方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者には日常生活をより充実させながら、チーム全員が事業所の「できること・できないこと」を見極め、掌握認識し共有しながら支援に取り組む準備・検討を行っている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退去の前後には、利用者ならびに家族の方に「入退去の理由」を十分理解していただくと共に、本人に関わる保険医療福祉の関係者と十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊厳し、人権を大切に考えながらプライバシーの侵害を損ねないよう、大切に配慮して行っている。個人情報は守秘義務を尊重して、誓約書にのっとった取扱いをしている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者本人の自己決定を尊重し、意見を十分受容し本人自身が満足のいける状況を作り出すよう支援を行っている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いする事なく一人ひとりのペースを大切に、利用者が1日を通して充足できたかを見極めながら支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族と共に行ける方は、行きつけの美容室に行かれている。又、行けない方は出張サービスに来ていただき本人の希望を取り入れていただきながらカット・顔そりなどをしていただいている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しくいただけるよう音楽を流し、明るく楽しい雰囲気の中で会食をしている。利用者の能力に応じて、職員と一緒に食事の準備・配膳・後始末をしている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1日3回お茶の時間を設け、楽しい談話の時間を過ごしている。なお、自己管理ができる利用者には居室に冷蔵庫を置きそれぞれに楽しんでいる。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	継続して排泄チェック表を記録しており、排泄の自立に向けて間隔や兆候に合わせて前誘導を行う支援をしている。又、はずせる可能性を意識して取り組みをしている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在週3回入浴日となっているが、年間を通じて要望があった場合は、入浴日以外でも体調に応じて入浴をしていただいている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、利用者のニーズに合った生活配分を考慮しながら満足感を持っていただき、安心して気持ちよく休息したり安眠出来るようケアに努めている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々のニーズに応じた取り組みをしており、各人が何が一番得手不得手かを見定めながら、職員が暖かみのあるサポートをし、利用者が楽しんで主体的に活動できるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際に合わせた買い物ゲームを通じてお金の取り扱いの基本的要素を(支払う・おつり)忘れないよう支援し、実際にその方のニーズに応じショッピングをして買い物の喜びを味わって頂いている。普段少額所持することにより安心される方には持っていたいでいる。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って戸外に出かけている。事業所周辺の花の水やり、草取り等にやりがいを感じる利用者又、散歩好きな利用者には体力と希望に合わせて喜びを味わうよう支援している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・身内と共に遠方への外泊、御主人との外出 ・月に一度の外食及びショッピング、みかん狩り ・地域行事への参加(夏祭り・敬老会)等々機会を作り支援している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者のニーズに応じて身内との電話での会話のサポート ・レクの時間、家族にお便りを書き通信と共に郵送したり等支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただき又、訪問された方が暖かみを感じられるよう雰囲気作りを工夫している。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束のないケアの取り組みをしており、安全確保のためやむをえない場合は家族の同意書を取っている。新職員にも理解を深めるよう取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	新しいセンサーを玄関に設置したが、玄関の内側に立った利用者にはその音が聞こえないため、玄関を開けて外に出ようとする。危険防止のため、従来玄関内入口に取り付けていた大きなチャイム音のセンサーも併用している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、本人のプライバシーに配慮しながら昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全への配慮もしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なハサミ等でも自己管理が出来る人には依頼し、一人ひとりの状態に応じた形で、物品の保管管理し又、職員は常時目配り強化し危険防止対策に取り組んでいる。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危機管理に対する知識を学び、細かい事でもヒヤリハットした事を記録する事を習慣化し、事故報告書も全職員周知し、同じことを繰り返さない様、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを整備しており、急変や事故発生時に冷静に対応できるよう、内部研修を行い全職員が応急手当や初期対応の訓練をし、今後も定期的実施することになっている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	突発的な災害時の避難訓練を実施し、備品等も慌てずに対応できるよう、すぐわかる場所に準備している。又、日頃より地域の人々(特に近隣)の協力を得られるよう馴染みの関係を築いている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりうるリスクを家族などに説明し、十分理解して頂くと共に、身体拘束のないケアを大前提に対応策を考えながら、抑圧感のない暮らしができるよう取り組んでいる。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとり体調の変化や異変の早期発見に努め、家族との連絡を密にしながらかかりつけ医との連携を図り、速やかに情報を共有し早期発見・早期対応に努めている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの服薬内容を十分把握し、医師からの処方箋や助言を間違いなく理解した上で、利用者に対応している。なお、副作用等に関しては速やかに医師に伝え診断を仰ぐ。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、一人ひとりの排便状況を把握したうえで、便秘が続いている利用者に関しては水分補給や運動、消化のよい食物、腹部マッサージなど対応をしながら取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を認識しており、一人ひとりの口腔状態を把握し、歯磨き・義歯消毒・うがいを毎食後支援している。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取カロリーを標準体重や年齢等から算出し、日頃の摂取量や残菜量や水分摂取状況等記録し、個別の状態に応じた支援をしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを備えている。必ず出入りのうがい・手洗い励行。感染症やインフルエンザ予防にはかかりつけ医のご意見をいただきながら予防に努めている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のためエタノール消毒・おしぼり使用又、調理器具も肉・魚・野菜と使い分けて衛生管理に努めている。業者からの発注などについて検品を実施している。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内外には花を置き、訪問者がいつお見えになっても暖かみを感じていただけるよう職員も笑顔でお出迎えを実践している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は安全を第一に安心して共有できるよう又、清潔さに気配りをし、利用者が居心地のよい場所となることに配慮している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で玄関及びリビング等にくつろげる場所を設け、利用者がお互いに誘い合って集いの場として活用出来るよう工夫をしている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の協力の下、思い出の品や使い慣れた家具類を置き、自己管理できる利用者には冷蔵庫を居室にて使用し、居心地良く自由にプライベートの時間を過ごせるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	不快な臭いがないよう換気に努めている。温度調節は、外気温との大きな差がないよう配慮し、冬場は加湿器を使用したり利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、一人ひとりの身体機能のニーズを活かし、安全かつ安心して自立した生活が楽しく送れるよう環境作りに工夫している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室をはっきり認識できない利用者には、目印として入口に花をつけたり、一人ひとりの残存機能をできるだけ活かし、混乱や失敗を防ぐ事によりその人なりの自立した生活が過ごせるよう工夫している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには危険性がないので、職員と共に散歩道として利用している。玄関先及び花壇には季節の花々を植樹し、心なごませるよう利用者と共に活動している。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働けている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない